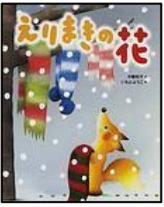


しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

冬休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2014年版]

	しよめい さくしゃめい しゅっぱんしゃ	ないよう		しよめい さくしゃめい しゅっぱんしゃ	ないよう
えほん	<p>「えりまきの花」</p>  <p>中島 和子 作 いもと ようこ 絵 ひかりのくに</p>	<p>ゆきがっせんをしているうちに、たっちゃんのエリまきがなくなりました。ゆきの上には小さなあしあと。たっちゃんが、あしあとをつけていくと、そこには…。</p>	としよ	<p>「森のせんたくやさんあなぐまモンタン」</p>  <p>茂市 久美子 作 中村 悦子 絵 学研</p>	<p>森のせんたくやさんモンタンのおみせのそばには、大きなサイカチの木があります。その木のみでつくったせんざいであったせんたくものは、はだにやさしく、森のかおりがします。さて、どんなおきゃくさんがくるのでしょうか。</p>
えほん	<p>「そうちゃんはおこってるんだもん」</p>  <p>筒井 頼子 文 渡辺 洋二 絵 福音館書店</p>	<p>いもうとのなっちゃんがおとうさんと、たのしそうにあそんでいます。「いつだってなっちゃんばかり！」そんなふたりにおこったそうちゃんは、テーブルの下にもぐってしまいました。おとうさんとなっちゃんがこえをかけますが…。</p>	としよ	<p>「こうさぎのあいうえお」</p>  <p>森山 京 作 大社 玲子 絵 小峰書店</p>	<p>おかあさんに字をおしえてもらったこうさぎ。こぎつねとこりすも、いっしょに字をべんきょうします。けんかをしたり、くろねこのどろぼうと出くわしたり、いろいろなことをたいけんして、3びきはだんだんと字をおぼえていって…。</p>
えほん	<p>「てぶくろがいっぱい」</p>  <p>フローレンス・スロポドキン 文 ルイス・スロポドキン 絵 三原 泉 訳 偕成社</p>	<p>てぶくろをかたほうなくしてしまったふたごのもとに、つぎつぎとおとしものてぶくろがとどけられます。ふたりのいえには、てぶくろがいっぱいあつまりました。いったい、どうしたらいいのでしょうか。</p>	としよ	<p>「そらいろマフラー」</p>  <p>北川 チハル 作 河原 まり子 絵 岩崎書店</p>	<p>小学二年生のナナは、まいばんいもうとのノンちゃんをおふろに入れてあげます。ノンちゃんはしょうがいをもっていて、ことばがしゃべれないけど、うれしそうです。そのノンちゃんがある日…。</p>
えほん	<p>「としよかんねずみ」</p>  <p>ダニエル・カーク 文 わたなべ てつた 絵 瑞雲舎</p>	<p>サムはとしよかんにすむネズミです。とにかく本をよむのが大好き。いろいろな本をたくさんよんで、とうとうすばらしいことをおもいつきました。「じぶんで本をかいてみよう！」サムはよるのうちに、じぶんの本をとしよかんのたなにならべて…。</p>	としよ	<p>「とっておきの詩」</p>  <p>村上 しいこ 作 市居 みか 絵 PHP研究所</p>	<p>冬休みに「詩」(し)をかいてくるしゅくだいを、ずっとかんがえてたけど、ひとつもできんかった。ほんまは、きょうひとつできたけど、ええことないわかれてポツや。「詩」をつくるってむずかしい。けれど、とてもすてきなことがおこりました。</p>
えほん	<p>「むかしむかしとらとねこは…」</p>  <p>ちゅうごく 中国のむかし話より 大島 英太郎 文・絵 福音館書店</p>	<p>むかし、とらはのろまで、えものをとるのがへたでした。そこでとらは、ねこからじょうずにえものをとるほうほうを、おしえてもらいます。ねこがしているすべてのわざを、みにつけたとらは、さいごにしりたいことがあると…。</p>	としよ	<p>「もりのほんやさん」</p>  <p>舟崎 靖子 作 舟崎 和彦 絵 偕成社</p>	<p>ほんやのやぎさんは、みせばんをしながら本をよんでいて、むちゅうになると、ページをむしゃむしゃたべてしまうくせがあります。ある日、はりねずみさんが、『めいたんてい わにさん』という本をかうと、さいごのページがなくなっているではありませんか！</p>